地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進

<地域学校協働活動とは>

　幅広い地域住民等の参画を得て、**地域全体で子供たちの学びや成長を支える**とともに「**学校を核とした地域づくり**」をめざして、地域と学校が相互に**パートナー**として連携・協働して行うさまざまな活動のことである。

<従来の地域の学校支援の取り組みとの違い>

　地域による学校の「支援」から、地域と学校のパートナーシップに基づく**双方向の「連携・協働」へと発展**させていくことをめざしている。

　地域が学校・子供たちを応援・支援するという一方向の関係だけではなく、子供の成長を軸として、地域と学校がパートナーとして連携・協働し、意見を出し合い、学び合う中で、**地域の将来を担う人材の育成**を図る。

　自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「**学校を核とした地域づくり**」を推進し、地域の創生につながっていくことが期待されている。

<地域学校協働活動の具体>

　・地域に出て行って行う郷土学習

　・地域住民とともに地域課題を解決

　・地域の行事に参画して共に地域づくりに関わる等

<コミュニティ・スクールとは>

　学校運営協議会を設置する学校をコミュニティ・スクールと呼ぶ。

<学校運営協議会とは>

　保護者や地域の人々が一定の権限と責任をもって学校運営に参画することにより、そのニーズを迅速・的確に学校運営に反映させるとともに、学校・家庭・地域社会が一体となってよりよい教育の実現に

取り組むことがねらいである。

<学校運営協議会の権限>

　・学校運営への承認

　・学校運営に関する意見具申

　・教職員の任用に関する意見具申

<地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進のイメージ>

学校運営協議会によりめざす子ども像を共有し、それを実現するための具体が地域学校協働活動と

なる。

<仁左平小学校の地域の学校支援とコミュニティ・スクールのこれまでの経緯>

　【Ｒ４】 「Ｒ３学校独自の実態調査３～６年」から以下の実態も加味し目指す子どもの姿を共有した。

〇協力すること、活動することの楽しさを知っている。

〇人の役に立つ人間になりたいと思っている。

▼自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことを苦手としている。

　　　　　　保護者中心の部会は廃止し、学校応援団は保護者を含めた地域という枠組みとした。事業運営は地域学校協働活動推進員（コーディネーター）を中心に、コーディネーター班（８名）を編成し、コーディネートした。

　　　　　　学校支援は、学校に来ていただくだけでなく、地域に出て行って行う郷土学習（伊加古バスツアー）、地域住民とともに地域課題を解決するもの（ゴミステーションアート事業）、地域の行事に参画して共に地域づくりに関わるもの（ケアセンターいずみ・きらり夏祭り太鼓出演）等、双方向の連携・協働にまで発展を見せてきた。

　【Ｒ５】　第１回学校運営協議会で目指す子ども像を「自分の夢を見つけ、夢に向かって努力する

子ども」と共有・確認した。

　　　　　　Ｒ４に引き続き、地域学校協働活動は、地域学校協働活動推進員（コーディネーター）を

中心に、コーディネーター班（９名）を編成し、計１０名での事業運営となった。

　　　　　　今年度は、感染症も落ち着き、地域の行事に参加（琴毘羅神社例大祭等）、太鼓出演を通して地域づくりに関わることができた。また、ピアノ伴奏・合唱指導（にのへ音楽院）、書写指導（日本習字馬仙峡書道教室）等の学習支援も新たにいただけ、子どもたちの学びをさらに広げ、深めることができた。（Ｒ６は演劇、絵画指導も予定）各種イベントは、チラシ、ポスターをその都度作成し、地域への参加を呼びかけ、多くの地域の方に学校に足を運んでいただく機会とすることができた。

学校が地域にどんどん足を運び地域を盛り上げる。また、学校を地域のために開くことで、多くの方が学校を訪れ、子どもたちの学びに関わっていただける。双方に大きなメリットが生まれる非常に良い関係性を築くことができた。

〈学校運営協議会のサイクルイメージ〉

【第４回学校運営協議会】（１２月）

・めざす子ども像の検討

・実現のための地域学校協働活動の検討

【第５回学校運営協議会】

（２月）

・めざす子ども像の策定

・地域学校協働活動の策定

学習評価・種々アンケートをもとにした**熟議**（評価）

【第３回学校運営協議会】

（９月）

　・事業推進

【第２回学校運営協議会】（７月）

　・事業推進

【第1回学校運営協議会】（５月）

　・めざす子ども像の共有

　・地域学校協働活動の確認

〈地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進　イメージ図〉

